

山と博物館

第40巻 第3号 1995年3月25日

大町山岳博物館



雪の主峰 写真と文 笠原良雄

八ヶ岳雑念

自宅を出て、約四十分で美濃戸に着いてしまふ。もちろん車で、約四十分で美濃戸に着いてしまふ。柄からして自然に八ヶ岳山行が多くなる。

二十余年山登りをしているつも思う事が、「八ヶ岳は簡単な山か？」で有る。確かにアプローチも短く、小屋も多く、一般ルートなら北から南まで二日も有れば全て踏破出来る。……簡単なかも知れない。近年の登山ブームで入山者が増え、山を楽しむもうとする人が度々来てくれることは有難いが、山と言う事をもっと認識してもらいたいと思う事が良く有る。現で、冬も内陸性の為、雪は少ないものの、低温と強風は一人前で有る。そんな時に出くわすと、また違った実感がする。近年雑誌にいろんなバリエーションルートが紹介されて、シーズンが終わらず、好みに応じた山行を楽しむ事が出来る様になって来た。中でもアイスクライミングは人口が増えて来た。夫々の価値観に沿った山行が出来て来よう。

最近ではカメラを担いでの冬期山行が多くなった。暗い中を行動開始して、山陵でモルゲンロートの山並みを撮る。こんな時良く思う事が僻み心からか、山の形、山並みへの要求で有る。北アルプスでは絵になる自然現象が、八ヶ岳では絵にならない事が多い。もちろん腕の悪さに起因することは百も承知している。

大町の地方誌に、八ヶ岳の記事を書くのも考えもの……ともためらったが、小生ぐらしか書く者が居ないだろう。シーズンを通じて、小ちんまりして居るものの、随所に「山」の凝集の有る八ヶ岳に乾杯。阿弥陀岳、赤岳、横岳——一帯は通年、山・写真共楽しみが一杯で有る。テントの中でストーブを焚き、一杯やりながら、ほろ酔い気分と思う。

……もうちょっと高く、急峻になったら……と。明日は地藏尾根に登り、焼ける阿弥陀を狙う。

……赤くなれば良いが……。

ツタンカーメンのエンドウ

—古代への夢とロマンを求めて—

尾川 元洋

一、歴史

ツタンカーメンは、紀元前十四世紀・古代エジプト王朝の悲劇の少年王です。今から約三千年前の王様であり、幼少の頃は、後見人が面倒を見ていましたが、十五才で一人立ちの王様になりました。十八才の時、突然死亡しました。原因としていろいろな説（病死・事故死・殺人）がありますが、ミイラの顔に傷痕があることや、後見人が王位についていたことから、誰かに殺されたのではないかとこの有力であります。

その後、エジプトの王様の墓（王家の谷）に埋葬されました。しかし、当時、ピラミッドにある王様の墓は、金銀財宝を狙う墓泥棒によって殆ど荒されておりました。しかし、ツタンカーメンの王墓は、長い間は無傷の状態で見つかりました。当時としては小規模であった少年王の墓は、その存在さえも忘れられていたからこそ盗掘をまぬがれ、財宝の輝きを失うことなく発見されたのです。イギリスの考古学者カーターが、研究のために政府の許可を得、長年かかって発掘を続け、偶然にも出入口の階段を見つけました。カーターは希望を持って仲間と掘り進め、いくつもの部屋を通って、やっとミイラの置いてある部屋（玄室）に辿りつきました。そこには石棺が置かれておりました。その中を見ると亜麻布がかぶられていました。さらにその布をはぐと人型棺が現れ、黄金のマスクを

取るとツタンカーメン王のミイラが出てきたのです。中には、副葬品として黄金のナイフ・水差し・金の指輪・胸かざり、その他多数の宝物がありました。そして百十六個のごもがありました。この中には、死後の世界の食糧にするために、たぐさんの食べ物が入っていました。そこに、エンドウがあつたのです。これこそ、ツタンカーメンのエンドウであります。これが発見されたのは、今から七十年前の一九二二年でした。

カーターは、他の品物と一緒にエンドウをイギリスに持ち帰り、発芽させることに成功しました。その後、エンドウの種子（子孫）はアメリカに渡りました。日本に伝わったのは、今から約三十七年前の昭和三十一年（一九五六年）でした。

二、経過

同年「世界友の会」水戸支部の大町武雄氏が、アメリカ・メイン州に送ったサクラ・イチヨウ等の種子のお礼として、ツタンカーメンのエンドウの種子数粒を譲り受けました。日本に伝わってからは、水戸市・高崎市・千葉市の小学校や博物館等で育てられ研究がなされてきました。

私が、南安曇郡三郷小学校に勤務していた頃、三郷村温の元信大理学部教授の鷲坂修二先生から、「児童の教材用にぜひ育ててほしい。子どもの方が大人より印象深いはず。

歴史や生物の勉強に役立てて…」ということに種子を三粒いただきました。これは、名古屋市の知人から送られてきたものだそうです。非常に貴重な種子ですので、慎重に栽培してきました。理科主任の先生とよく相談して

最初はシャールで発芽させることにしました。三月上旬シャールの中に脱脂綿を敷き、そこに水を湿らせて種子を置き、発芽の様子を観察しました。何日かたつて三粒とも根が出てきました。早速、大菊用の鉢に土と腐葉土を入れ、シャールの種子を移して埋めました。子ども達は、水や肥料をやつて丹念に世話をしました。やがて発芽し大きくなって、六月上旬にエンドウは花を開き、小さなかわいいさやをつけたのです。古代の生命が、三郷小学校で目覚めました。花は赤紫色であり、さ

やは濃い紫色でした。平成四年四月、三郷小学校で採種されたものの中から、十五粒を松川小学校でいただきました。

三、松川小学校での栽培活動

1、一年目の活動（平成四年度）

三郷小から譲り受けた十五粒の種子は、四月十日にポットに播種し、水を与えてから温室の中で発芽させました。それを鉢に移植し丹精込めて育ててきました。六月下旬、十五本が茎の高さ約一メートルに生長し、赤紫色のかわいい花と濃い紫色のさやを三、四個ずつつけました。この種子の栽培を通して、歴史に興味を持たせると共に、一粒の種子の命をも大切にするような子どもに育てるために



ツタンカーメンのエンドウの花とさや

この中の一鉢を校内に展示しました。同時にツタンカーメンに関する図書や一般家庭にある普通のエンドウ(さやは緑色)も見本に添え、興味を喚起するようにしました。

全校の子ども達は、これを観察し、濃い紫色と緑のさやを比較し、驚嘆の声を発していました。一年い組(担任下坂みどり教諭)では、早速、教室に帰ってから、このエンドウを教材にして感想を話し合いました。七月二日付の学級通信で、子どもが紹介されました。

「ほく、食べてみたいいな。」

「先生、あのさやの中のとね、きつとキラキラと光っていると思うよ。」

「ほく、エジプトへ行ってみたいいな。」

「先生、ナイル川ってどういう川？」等、様々な声が上がっていました。

担任は、「それにしても、三千三百年前のエジプトの人達が見ていたのと同じ花を見ていると思うと、とても不思議な気持ちになります。濃い紫色のさやは神秘的で、子ども達がどんな味がするのかな、食べてみたいなど言うのもよくわかります。」と述べております。一年生ではありますが、すばらしい反応を示した子ども達でした。担任の子ども達への投げかけや扱いも見事でした。やはり、私たち教師は、教科書だけにとらわれていないで、このような感動的な教材を与えてやるのが大切だと思います。「事実は無二のものその重さは比較を絶する」という、ロシア文学者中村白葉先生の言葉がありますが、まさにその通りだと思います。

当時、大糸タイムス社では、「松川小で古代の花ひらく——ツタンカーメンのエンドウ」という報道をしてくれました。

七月下旬になってから、エンドウの茎も葉もさやも枯れてしまいました。子どもと一緒に採種をしました。約八十粒とれました。

二月上旬に、花さか委員会が中心になって北校舎北側の畑にあるビニールハウスの中へ来年度用の種子五十粒を播種しました。二・三週間後には九十パーセント以上が発芽しました。非常に生命力の強い種子でびっくりしました。

2. 二年目の活動(平成五年度)

本年度も、種子が順調に発芽し生長しました。五月下旬には、花が咲き、さやをつけ始めました。今年は生長がよく、背丈は一・八メートル・さやの長さ約八センチ・さやの数一株で十個前後・実の数一さやで五・六粒位。六月に入ってから、私が初めて試食してみま

した。シヤキシヤキと菌ごたえがあり、甘みがあつて風味は日本の緑のエンドウとあまり変わりありませんでした。

六月の全校お話集会で、「ツタンカーメンのエンドウ——その歴史と経過・育て方の提示し、エジプトの歴史・ツタンカーメン王・王墓発掘の様子・歴史や生物について学ぶことの大切さ・一粒の命も大切に生き方等について語りました。集会後、五年生のN君が校長室へ来て、是非ミイラの写真を下さいと訴えてきました。早速、コピーしてN君に渡しました。歴史に興味があるようで、いろいろな質問をしてきました。このことが契機になりN君の学習は、多方面にわたって発展していきました。(後述)



観察する子ども達

七月末には、八百七十粒の種子を採種しました。昨年の約十倍になった訳です。そこで、多くの興味ある方々に栽培してもらいたいというので、寄贈したり、希望者に分けてやったりしました。

「当松川小学校では、児童の教材用としてツタンカーメンのエンドウを育ててきました。本年度は、花さか委員会の手によって予想以上に大量の種子を採種することができました。そこで、貴校の児童・生徒の皆さんにも教材用として役立たせていただきたいと思い、ほんのわずかですが寄贈させていただきます。」という手紙を添えて、郡内の小・中・高校へ送りました。又、博物館・村内外の希望者多数、遠くは北海道の主婦にも送付しました。このことが大きな反響を呼び、各地からお礼の手紙が届きましたので紹介します。

○松川小学校からツタンカーメンのエンドウ豆をいただきました。たった三粒ですがツタンカーメンの王墓から出土した古代エジプト王族の食した珍しい種である。○先生に種蒔きして頂く予定です。松川中 内川三郎先生

○ツタンカーメンのエンドウの種子ご寄贈を賜り感謝しています。生物研究室へ手渡しして適期に播種するよう依頼しましたが、ご厚情に応えるものと考えております。

大町高等学校長 太田光春先生

○本日は、資料と共に種もお分けいただき誠にありがとうございました。えんどう豆を通じて、生命尊厳の教育をされている姿勢に心打たれました。当館も、学校教育にどんなお手伝いができるのか試行錯誤の毎日です。

大町エネルギー博物館長 村井直人様

○ほくは、四年前に松川小学校を卒業し、現在南農高校生物工学科の一年生です。頂いた

種は、バイオの実験等に使用していただきま
す。この種を増やし実験実験をするのは来年
ですが、たくさんの種がとれることを期待し
ています。はるか昔の種の子孫を扱えると思
うと不思議で、今から実験の事が楽しみでな
りません。本当にありがとうございます。

南安曇農業高等学校 堀島純一様

○お電話させていただいた時から、小学二年
の長男、幼稚園年中の長女は、本当に譲って
頂けるものかどうかの心配と期待とで過ごし
ておりました。種が郵送されてきた当日、届
いた旨を伝えると、目を輝かし、どうして？
どんな物なの？ とただ珍しい物を手にした
というだけでなく、エジプトの事・ピラミッ
ドの事・栽培法についてまで、わからない事
だらけの全てを親に質問してきました。親の
知識もたいした事なく限界がありますので、
この夏休みは親子で図書館通いし勉強したい
と考えております。ありがとうございます。

一年後の便り

昨年、ツタンカーメンのエンドウの種を譲
っていただきながら、その後の報告もせず申
し訳ございませんでした。四月中旬に種まき
をしました。下旬には六粒全てが発芽しまし
た。子どもが普通のエンドウと比較しながら
観察しています。(中略) 来年こそ試食をと
楽しみにしております。六粒の小さな種から
教えられたことがたくさんありました。

北海道斜里郡 藤田寿恵様

このような数々の感動的な手紙に励まされ
ながら、実践を継続して参りました。

3. 三年目の活動(平成六年度)

本年度は、栽培活動を一層充実させようと
いうことで、外のビニールハウスを中心
に、温室及び校長室・保健室前のテラスで、

プランター・大鉢を利用して百五十粒以上を
播種して栽培しました。

又、全校児童の意識を高揚させるために、
各クラスでもプランターで栽培し観察しまし
た。村内では、松川村役場庁舎の玄関前へプ
ランターを置き、役場を訪れた大勢の村民に
見てもらいました。説明書きを熱心に興味深
げに見ている人達が目につきました。その他、
公民館・保育園・一般商店などでも栽培しま
した。学校のもの、七月末に収穫しました。
五年は組(担任竹村修教諭)の児童が種子を
数えてみたら、何と四千四百粒ありました。
三郷小からいただいたときの約二百九十倍
にもなった勘定です。この喜びは言いようが
ありません。ツタンカーメンのエンドウ栽培
の輪を更に広げることになりました。子ども達
が、配布用の袋を作り、その中に種子を入れ



採種した種子

て、まず松川小学校の全児童・職員六百三十
名に配布しました。昨年に引き続いて、大北
の全小中学校・村内及び他町村の希望者にも
分けてやりました。担当の竹村教諭は、「皆
さんに育ててもらって、生命力の強さを知る
と同時に、歴史にも興味を持つてほしい」と
語っております。

秋の播種期になってからは、「ツタンカー
メンのエンドウをまきましよう」というチラ
シを配って全児童に呼びかけました。各クラ
スはペランダのプランターに播き、児童は各
家庭に持ち帰り、古代に夢を馳せながら家族
と一緒に播きました。十一月下旬には発芽し
ました。大勢のお母さんから「校長先生、お
陰様でエンドウの芽が出ました。うれしいで
す。来年の生長が楽しみです」という報告が
寄せられました。子ども達の発芽報告・喜び
の声も校長室に届きました。みんな興味深く
観察を続けているようでした。ビニールハウ
スのものは既に十センチの大きさになってい
ます。

前述した六年生のN君は、五年生の時から
今日まで二年間、エジプトやツタンカーメン
の研究に没頭してきました。図書館の本を積
極的に利用したり、理解あるすばらしい母親
の協力によって自ら書店で本を買ったり、注
文して本を取り寄せたりしました。ピラミッ
ドの秘密・ミイラと墓泥棒・謎の少年王ツタ
ンカーメン・エジプト考古学・古代エジプト
文明の謎等十数冊に及びます。これに関する
学習のまとめも、大学ノート五冊目です。毎
日、校長室を訪れるN君の目は、爛々と輝い
ております。エジプトについて語るその言葉
は自信に満ちております。これこそ、真の学
問の追求者であり、本物の学習者であると言

っても過言ではありません。個の伸長は、観
念ではなく、このような具体的事実から出発
しなければなりません。この活動を通じてこ
のようなすばらしい子ども達が育ちつつある
ことを、幸せに思っているこの頃です。

四、終わりに

ツタンカーメンのエンドウの恩人鷲坂先生
から、懐かしいお便りが届きました。
「この度は、ご丁寧なお便りをいただき有難
うございました。ツタンカーメンのエンドウにつ
いて、その消息を詳しく知ることができまし
た。子ども達の瞳が輝いたであろうことが何
よりも嬉しく、有難いことと思っております。
私は、ただ仲介をつとめただけで、ご熱心な
校長先生のお力があつたればこそと存じます。
一層のご活躍をお祈りしております。」

このエンドウの栽培を通じ、古代への夢と
ロマンを求めて、数多くの子ども達や大人が
自分の命を燃やし続けていることを尊く思い
ます。これも、元信大理学部教授 鷲坂修二
先生のお陰です。厚くお礼申し上げます。
(北安曇郡松川村 松川小学校校長)

訂正

先月号4P、図2のbとcの写真が入れ替
わってしまいました。上から二枚目の写真がテン
で、三枚目がニホンザルです。お詫びします。

山と博物館第40巻第3号

一九九五年三月二十五日発行
発行所 千歳長野県大町市 TEL 〇二二一
大町 山岳博物館
印刷所 長野県大町市依町
大糸タイムス印刷部
定価 年額 一、五〇〇円(送料共) 切手不可
郵便振替口座番号 〇〇四〇一七二一三三三